就任御挨拶

宮司　金井國俊

黒田忠雄前宮司の御勇退により、七月一日より宮司に就任致しました。その重責に耐へうるか、覚つかない限りですが、崇敬者各位の御支援を戴きながら、日々神前にお仕へ致したく存じます。御指導賜りますやうお願ひ申し上げます。

五月末日をもって、酉年式年大祭を無事終る事が出来ました。黒田前宮司のもと、多面に渉る記念事業を御奉仕いたしましたが、講中・崇敬者各位、東京都・青梅市御当局のご理解も頂き、当初の計画すべてを竣工することが出来ました。皆様方の御芳情に深く御礼申し上げます。

そのあとを受けての、私に課せられたものは、ただひたすらに神前に御奉仕申し上げ、ややもすれば、失なはれ、忘れられがちな、日本人としての矜持、謙虚で、おほらかで明るい国民性の復権の祈りを御奉仕の根帯として、日々を重ねていくことではないかと思ってをります。どうぞ御教示下さいますやうお願ひ申し上げます。末筆ながら、ご講中、崇敬者の皆様の益々の御清栄と御健勝を念じ上げて、ご挨拶と致します。

太々神楽奏上

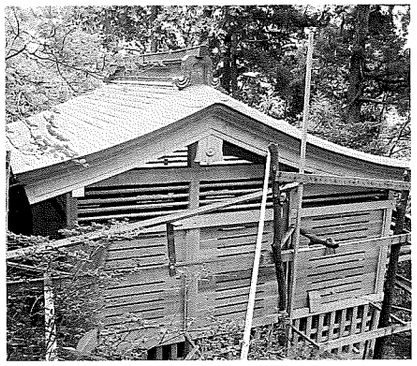
（平成十六年六月一日から
平成十七年五月三十一日）

カンタンの声を聴く会
世田谷区　大蔵本村講
町田市　広袴講
川越市　砂久保御嶽講
狭山市　笹井講
巴屋同盟会
三鷹市　新川宿講
北島泰年社中
川崎市　馬絹講
練馬区　下石神井向三谷講
東久留米市　小山講
御岳二丁目自治会
川崎市　下小田中百人講
新座市　大和田講
川崎市　新城講
横浜市　羽沢御嶽講第四区
三芳町　藤久保御嶽講
狛江市　和泉原親睦会
秦野市　堀西黒木欠畑講
町田市　上山崎講
町田市　木曽境川講
川崎市　登戸上ノ台敬神講
飯能市　一丁目永代御嶽講
秦野市　秦野太々講
葛飾区　御〆御嶽講
川崎市　長沢講
滑川町　月輪講
横浜市　子安入江講
大田区　六郷参拝講
川崎市　宮前区平御嶽講
東久留米市　落合講
仏法僧と探鳥の集い
小平市　喜平町御嶽講
府中市　屋敷分講

男具那社修理及び覆屋新築工事

奥の院に建つ男具那社は古くは征夷高祖御社といわれ、日本武尊が祭られています。日本武尊が東征の折、この山の岩座に武具を蔵した事から武蔵の国号がついたといわれ、当地では甲籠山と呼ばれていました。

本殿と表門は解体修理し漆で塗られ、覆屋は白木造りで屋根は銅板で葺かれました。以前の覆屋より大きく、本殿の周りをすっかり囲う形となりました。平成十七年十二月には竣工し、風雨や直射日光から本殿を護るようになります。



式年大祭記念事業収支報告

収入		支出	
講中寄付	一五六、四六、三〇〇	工事費	一三四、〇一九、二〇五
社家寄付金	一〇、一〇〇、〇〇〇	境域整備事業	二五、七四三、三一五
銅板寄付等	一三、三三四、五〇〇	事務費	一九、九三八、七七九
篤志家寄付金	二四、七六八、〇〇〇	記念品代等	四五、七一九、三三三
神社拠出金	二〇、〇〇〇、〇〇〇	祭事関係費	一八、六三一、〇四六
利子諸収入	三、六三一、八七八	境域整備積立金	八、〇〇〇、〇〇〇
補助金	二四、〇八二、〇〇〇		
合計	二五二、〇五二、六七八	合計	二五二、〇五二、六七八

寄付者芳名

（平成十七年二月～七月）

壱百萬円
中野区　新井講中

参拾萬円
藤沢市　長後御嶽講
横浜市　上麻生講中

弐拾萬円以上
北本市　北本宿講中
愛甲郡　小澤講中
新宿区　井筒
八王子市　㈲幸信工務店
江戸川区　宇田川洋子

壱拾萬円以上
横浜市　笠御嶽講中
青梅市　梅郷杉平講中
東松山市　下岡講中
青梅市　渡辺風呂桶店　渡辺勇
青梅市　戸井田土木
台東区　みす平総本店
青梅市　神代屋宗達
江戸川区　宇田川健次
江戸川区　宇田川文男
入間郡　江原義男
川越市　北山田講中
三芳町　高橋義男
高座郡　馬場孝

五萬円以上
坂戸市　白田登雄
川島町　南戸守講中
青梅市　花いかだ　鈴木眞一
川越市　天沼新田講中
青梅市　沢井診療所
青梅市　福島塗装
北本市　本宿天神社
三鷹市　杉山冨美夫
杉並区　大宮松ノ木講中

参萬円
川崎市　原光好
青梅市　師岡紀男
御岳山　池谷利代子

弐萬円
新宿区　菅原敬介
江戸川区　大澤禎司
府中市　本多充男
横浜市　成田君造

壱萬円
相模原市　石丸商行㈲
秦野市　村上明男
平塚市　芦川友広
平塚市　菊地栄司
桶川市　新倉忠男
川崎市　野口成二
江戸川区　井上幸子
群馬郡　榛名神社
御嶽山天王奉賛会
杉並区　五十代文夫
三浦市　大場善延
川口市　濱中宗祐
品川区　平林裕好
所沢市　狭山ヶ丘講

（金額・受付順　敬称略）